

雜報

第三十四回文科學術談話會記事

上田万年先生の御講演を願ふ事になつてゐた今度の會は、先生御所勞の爲にのび／＼になつて、二月五日午後一時から本校講堂で開かれた。兼ねてから「朗讀について」といふ題目で御話していただいくといふ事をきいて、現今朗讀について懐りなく思つた自分は非常な期待で、この日を待つてゐた。然しこの日もまだ御不快で、聲咳に接する事の出来なかつたのは返す／＼も殘念な事であつた。

順序

一、開會の辭

- 一、東京市の地震について 文二ノ三 平神
文二 小山 靜枝
文一ノ四 中島 恒子
一、英語暗誦
一、注意につきて
一、閉會の辭
以上

めつきり陽氣が寒くなつて風邪をひく人が多かつた爲でもあらうが、出席する會員が少くて、半圓形につけられた席の七分にも満たなかつたのはしみ／＼冬の荒涼といふ事を思はせられた。然し説く人も聞く人もこゝに集つた限りの人は非常な熱心であったので、双方の呼吸がびつたり合つて居たし、ことに今日は、會長の中川先生をはじめ多數の先生方や贊助員の方が御臨席下されたので、この點に於ても我々會員一同は非常な心強さとよろこびを感じた。とにかく、本年度最後のこの會は緊張し切つたものであつたのは大變嬉しかつた。かうした氣持がいつまでも持續せられて行くならきつとこの會をもつと發展させるにちがひないと思つた。單に會員だから義理に出るといふ事ではなしに、自分のものを育てゝ行くといふ親切さを持つてみんなが出て呉れたならどんなにうれしからうと、今日の嬉しさにつけ痛切に思はずにはゐられなかつた。

閉會三時。——K.H.